

第14回 医療技術大学 健康づくり調査隊



ひめけん 健康づくり

愛媛県立医療技術大学の学生たちは、健診機関である当協会で実践的な研修をととして専門知識と技術を磨いてくれています。今回は学生時代の学びを糧に実際の現場で活躍している3人の卒業生と、研修に参加した現役学生の声をご紹介します。

愛媛県立医療技術大学とは

- 所在地：砥部町高尾田543
- 学部：保健科学部
- 大学院：保健医療学研究科

県内唯一の臨床検査技師及び助産師の養成機関であり、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師を目指す方のための、地域に根差した県内有数の医療系大学です。



01

大学院2024年度卒業

小田 千寛さん
呉医療センター・病理診断科

現在の勤務でも、学生時代の経験が日々の業務に大いに生かされています。細胞診実習では、病変を正確に診断するためには正常の細胞像を理解することが重要だということも教えていただきました。年齢やホルモンバランスによっても細胞像が変化するため、良性変化と病変との見分け方などについて、時間をかけて丁寧に指導いただいたことは、現在の診断業務の基礎となっています。心電図業務では、検査技術だけでなく、患者様との接し方や気遣いについても学ばせていただき、この経験が現在の業務に取組み上で大きな強みとなっています。お忙しい中、ご指導いただき、心から感謝しております。今後はさらに多くの症例を経験し、知識と技術の向上に努めていきたいと考えています。



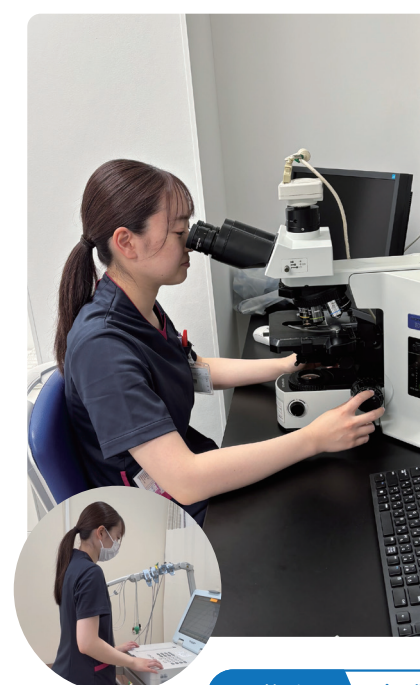
研修生へ 実習でしか得られない学びや気づきを大切に！

02

大学院2024年度卒業

近藤 ゆめのさん
社会福祉法人恩賜財団 済生会西条病院 臨床検査科

細胞診では標本作製や鏡検、デイスカシオンを通して細胞判定基準や鏡検のコツを習得。血液混入や染色状態など標本作製の違いによって鏡検のしやすさが変わることや、正常細胞を理解することが異常細胞の発見につながることを学びました。判定に迷った際には毎回丁寧に指導していただき、理解を深めることができました。心電図では実際の受診者に検査を行い、基線の揺れや筋電図への対応、右胸心や電極装着が困難な場合の工夫、受診者への声掛けなど実践的な技術を学びました。現在は、研修で学んだ細胞判定基準を活かして婦人科検診標本の鏡検、健診での心電図検査も担当。実際の当直業務でも、研修で得た知識と経験が役立ちました。今後はさらに鏡検の速度と正確性を高めることにも、心電図異常についても学習を深めていきたいと考えています。

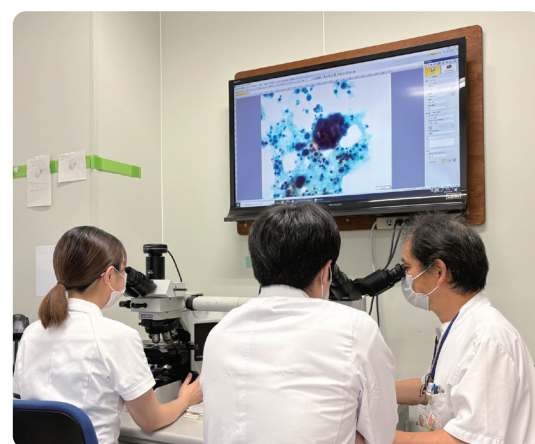


研修生へ 実践を重ねれば、対応力や正確性が向上するので積極的に！

03

大学院2026年度卒業

清徳 美玖さん
東広島医療センター



特に印象に残っているのは、婦人科LBC標本のスクリーニング練習です。研修当初は、細胞の見方や異型の判断に悩むことが多くありましたが、職員の方々に丁寧に指導いただき、毎回ティーチングを受けることで理解を深めることができました。この経験は現在の細胞診業務にも非常に役立っており、東広島医療センターでも所見について円滑に意見交換ができています。将来は、細胞検査士として適切に所見を書き、診断につなげられる技師になることが目標です。そのために、日々多くの症例を学び続けたいと考えています。研修では、標本の見方だけでなく、考え方で学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

研修生へ 最初は難しくても諦めず勉強し続ければ必ず身につく！

現役学生の声 ～研修で学んでいること、感じていること～

研修期間

1回生の12月～(約1.2年間)

内容

臨床検査技師の補助、健診現場研修



臨床検査学科
4年生 仲田 楓花さん

現在は、臨床検査技師国家試験合格を目指し、学業に専念しております。

特に印象に残っているのは、春休みに参加した巡回健診。私は主に受診者の誘導やファイル整理の補助を担当しました。健診に携わる臨床検査技師の方々は検査室で検査結果を確認するだけでなく、受診者の方と直接関わりながら検体の採取や記録を行っていました。その姿を間近で見学し、検体を単に「正常か異常か」として判断するのではなく、その背景にいる「人」を意識することの大切さを学びました。



臨床検査学科
3年生 水口 藍良さん

同行させていただいた巡回健診が印象に残っています。普段は検査室での業務が中心ですが、健診機関ならではの業務を直接見学することができ、とても貴重な機会であると思います。大学では、座学や実習でも手法(手技・観察・計算を実際に手で行う)を用いることが多いですが、現場では機器による自動化が進んでおり、その違いも印象的でした。将来は、正確で信頼される臨床検査技師になりたいと考えており、研修で多くの経験をして自分が進みたい道を少しずつ明確にしていきたいです。

健診現場で学ぶ



教授メッセージ



愛媛県立医療技術大学
大学院 医療技術科学専攻
則松 良明 教授

『細胞診実務研修でのご指導に感謝!!』

本学では細胞検査士を志す学生のため、2023年度より大学院医療技術科学専攻において、「細胞診検査学習支援プログラム」を開講。

しかし、細胞検査士資格認定試験の全国合格率は30%台と極めて低く、合格には膨大な座学に加え、長期間にわたる実務研修が必要です。本学には附属病院がないため、実務研修の実施には学外施設のご協力が不可欠な中、愛媛県総合保健協会様には、学生の1年間にわたる研修をお引き受けいただきました。

そのお力添えにより、第1期生2名および第2期生1名の全員が細胞検査士資格認定試験に合格し、資格取得を果たしております。ご多忙の中、学生一人ひとりに対して時間を割き、丁寧かつ熱心にご指導くださったスタッフの皆様に対し、心より深く感謝申し上げます。

ひめけん健康づくり調査隊では、掲載いただける団体様を募集しています。
【企画広報費は無料】
0898-997-0003

研修経験が、今の私を支えています！ 卒業生インタビュー